

# 基本操作編

ここでは、プログラムの起動方法、画面まわりの機能、データの入力、編集方法といった宅地分譲シミュレーションの基本的な操作を解説します。

1	プログラムの起動	2	6	データの編集	10
2	画面まわりの確認	3	属性を変更する	10	
3	データの入力	4	データを削除する	10	
	区画外周線を入力する	4	トラッカーを使う	11	
	方位マークを入力する	4	スポイトを使う	12	
	道路を入力する	5	コマンドコレクションについて	12	
	建物領域を入力する	6	7	立体データの確認	13
	作図範囲を設定する	6	立体モニタを開く	13	
4	画面の拡大・縮小	7	立体モニタでの画面操作	13	
	両ボタンドラッグによる画面操作	7	視点ボタンを使う	14	
	その他の方法	8	8	物件変更とプログラムの終了	14
5	データの選択	9	データを保存する	14	
	「要素範囲」で選択する	9	プログラムを終了する	14	
	属性種別ごとに選択する	9	[補足] 物件データのエクスポート・インポート	15	
			[補足] マネージャーをお持ちの場合	16	

# 1 プログラムの起動

- ① デスクトップの「ARCHITREND 宅地分譲シミュレーション Ver1」アイコンをダブルクリックします。
- ② 「物件選択」ダイアログの「新規」をクリックします。
- ③ 「物件情報」ダイアログで、物件名などを入力して、「OK」をクリックします。
- ④ 「処理選択」ダイアログの「宅地分譲シミュレーション」をダブルクリックします。
- ⑤ 「図面選択」ダイアログの「1面」をダブルクリックします。
- ⑥ ここでは「条件設定」ダイアログの初期値のまま「完了」をクリックします。宅地分譲シミュレーションの画面が表示されます。



## 2 画面まわりの確認

入力画面について、各部の名称と機能を確認しましょう。

**プルダウンメニュー**  
目的別のメニューからコマンドを選択して処理を行います。

**ツールバー**  
複数のボタン（アイコン）が機能別にまとめられています。

**タイトルバー**  
作業中の物件および図面（ウィンドウ）の名前が表示されます。

**汎用ツールバー**  
汎用データ（線・文字・寸法・ハッチングなど）の入力機能や移動・複写・変形などの編集機能がメニュー別にまとめられています。

**専用ツールバー**  
図面専用の機能がメニュー別にまとめられています。

**マウスカursor**  
マウスポインタをCAD領域へ移動すると、十字の形をしたカーソルが表示されます。

**メッセージツールチップ**  
CAD領域でマウスポインタをとめると、次の操作に関する説明が表示されます。

**CAD領域**  
図面データを編集する場所です。背景の色は変更可能です。

**タブバー**  
現在開いている図面（ウィンドウ）の名称がタブに表示されます。タブをクリックしてウィンドウを切り替えたり、閉じることができます。

**ポップアップメニュー**  
CAD領域で右クリックすると開くメニューです。入力中によく使われる機能や汎用ツールバーの機能がまとめられています。  
※「設定」メニューの「基本設定」の「ポップアップ」でメニューに好きな機能を割り当てすることもできます。

**メモリ消費量**  
メモリの使用量を表示します。使用量が多くなるにつれバーの色が変わり、警告メッセージが表示されます。お使いのOSが32bit版か64bit版かによって表示される色が異なります。  
32bit版: [Blue bar]  
64bit版: [Grey bar]

### ヘルプを活用する

プルダウンメニューの「ヘルプ」から「ヘルプを開く」を選択すると、「宅地分譲シミュレーション ヘルプ」のホームページが開きます。ヘルプでは、ARCHITREND 宅地分譲シミュレーションの使い方を解説した最新のマニュアルデータやサンプルデータをダウンロードしたり、機能解説を検索したりすることができます。

また、メニューでコマンドを選択して F1 キーを押すと、その機能解説（ヘルプトピック）を呼び出すことができます。

ヘルプの詳しい使い方については、「宅地分譲シミュレーション ヘルプ」のホームページの「ヘルプの使い方」を参照してください。

※ インターネットに接続されていない場合は、宅地分譲シミュレーション ヘルプからマニュアルやサンプルデータのダウンロードページは表示されません。



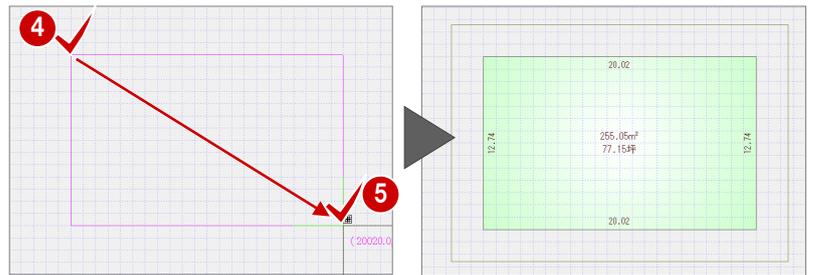
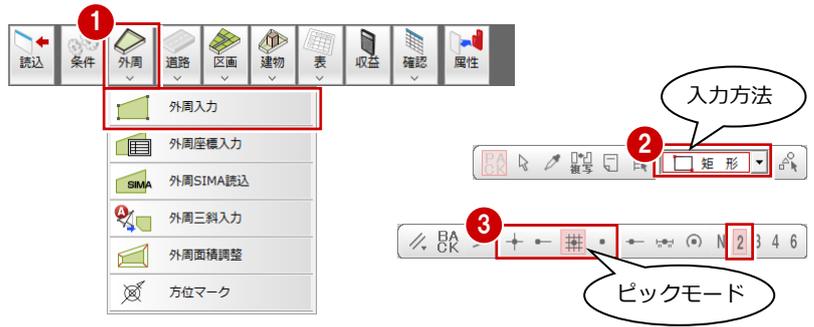
# 3 データの入力

## 区画外周線を入力する

- 「外周」メニューから「外周入力」を選びます。
- 入力方法が「矩形」、ピックモードの「グリッド」がONであることを確認します。
- 外周の始点と対角点をクリックします。

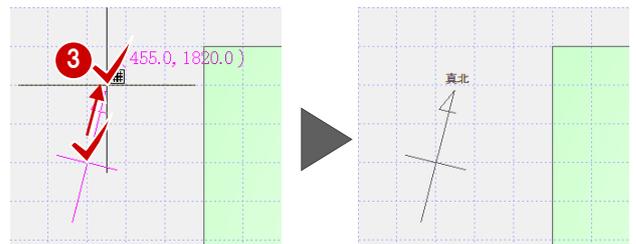
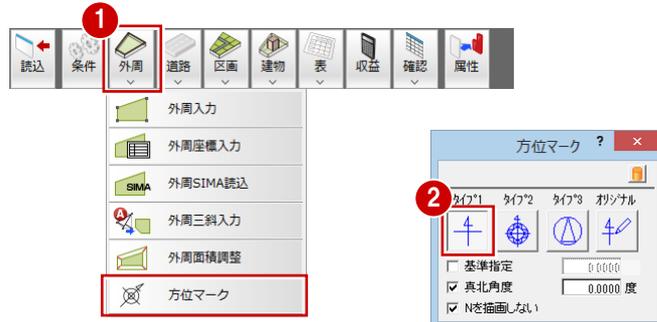
### 入力方法の切り替え

多角形の領域を入力するときは、入力方法が「矩形」のまま始点をクリックし、水平もしくは垂直の位置に2点目を取ると、一時的に多角形入力になります。  
 また、入力方法を「多角形」に変更して入力することもできます。外周入力の2点目を任意の位置で取りたい場合はこちらの方法が便利です。  
 なお、入力方法は入力するデータによって異なります。



## 方位マークを入力する

- 「外周」メニューから「方位マーク」を選びます。
- 方位マークのタイプ（ここでは「タイプ1」）を選びます。
- 方位マークの基準点と方向をクリックします。



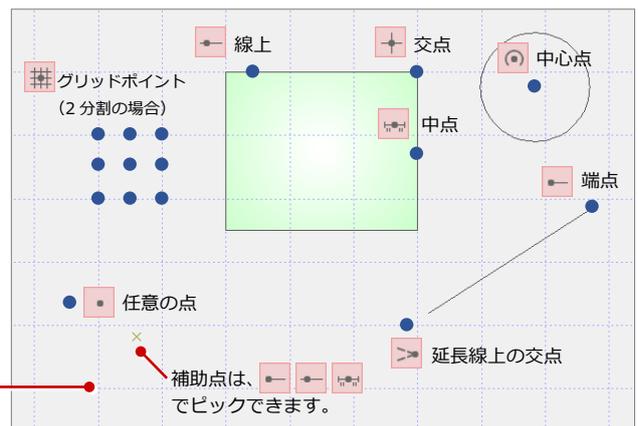
### ピックモードについて

CAD領域に点線で表示されているマス目を「グリッド」といい、手書きで図面を描くときの方眼紙の役割をします。このグリッドや図面上のデータ（図形からできる頂点、線分）を利用して、マウスで正確な位置をつかむ（ピックする）機能を「ピックモード」といいます。

右図に示すポイントをつかみたいときは、該当するピックモードに切り替えます。



グリッド線



## 道路を入力する

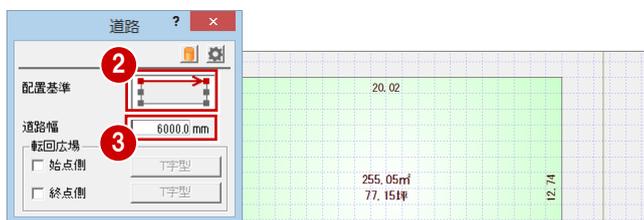
① 「道路」メニューから「道路」を選びます。



② 「配置基準」を「左面」に変更します。

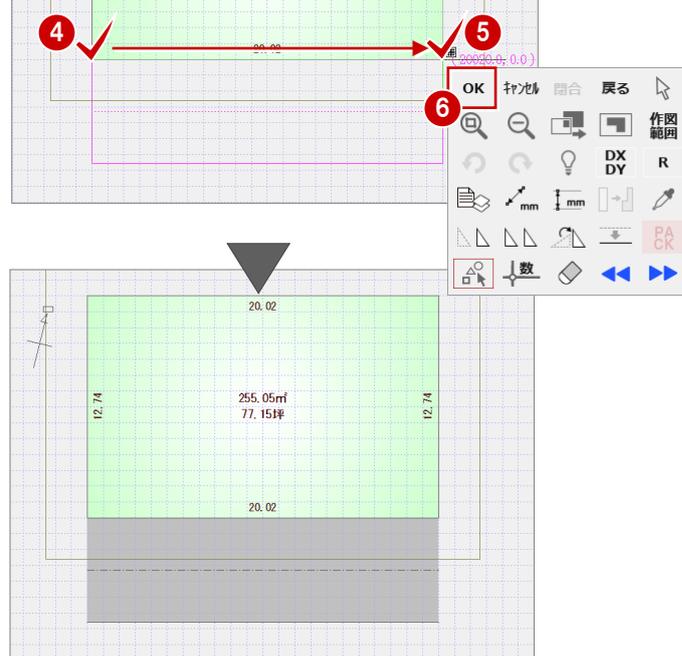
③ 「道路幅」を設定します。

ここでは「6000」にします。



④⑤ 始点、終点をクリックします。

⑥ 右クリックして、「OK」をクリックします。



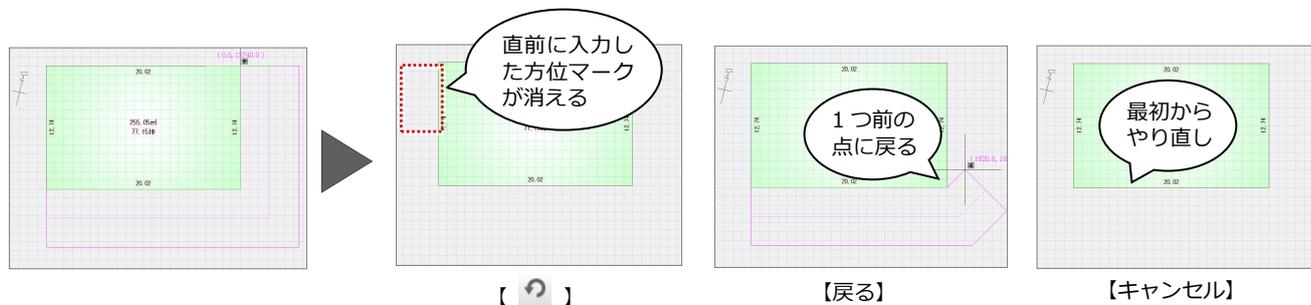
### 入力を間違えたときは

入力したあとで部屋の位置やサイズの間違いに気付いた場合は、 をクリックすると直前に行った操作が取り消されます。

 は、連続して 30 回前まで操作を戻すことができます。 で行った操作をやり直すには、 をクリックします。

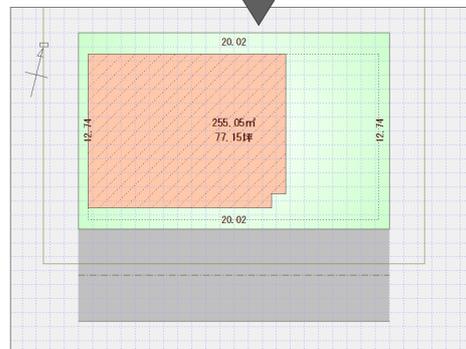
入力の途中でクリックする位置を間違えた場合は、マウスを右クリックして「戻る」または「キャンセル」を選びます。

- ・「戻る」(Backspace キー) : 最後にクリックしたポイントを取り消して 1 つ前のポイントに戻る
- ・「キャンセル」(Esc キー) : 1 点目から入力をやり直す



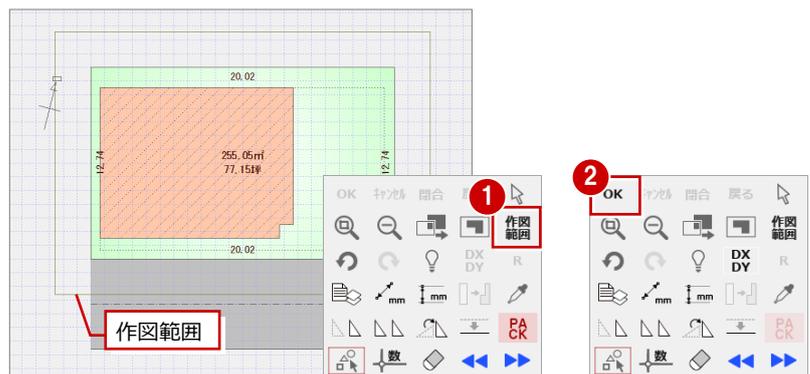
## 建物領域を入力する

- 1 「建物」メニューから「建物領域自動配置」を選びます。
- 2 ここでは、「建物領域自動条件」ダイアログの初期値のまま「OK」をクリックします。



## 作図範囲を設定する

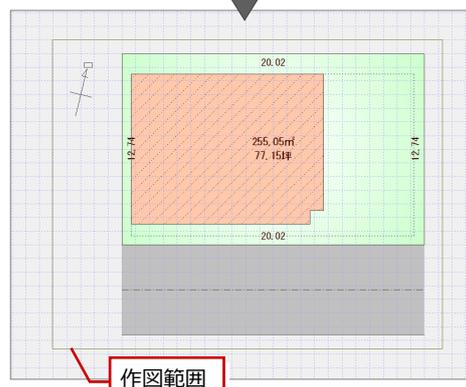
- 1 右クリックして、ポップアップメニューから「作図範囲」を選びます。
- 2 再度、右クリックして「OK」を選びます。またはEnterキーを押します。入力済みのデータがおさまるように作図範囲が設定されます。



### 作図範囲とは

作業する範囲の目安となるものです。画面を全体表示 (P.8) にしたときに、この範囲が画面いっぱいに表示されます。作図範囲は、対角にクリックして設定することもできます。作図範囲は、どの時点で設定してもかまいません。

- ※ 作図範囲の設定は、 で戻すことができません。
- ※ 作図範囲コマンドは、 をクリックすることで解除できます。

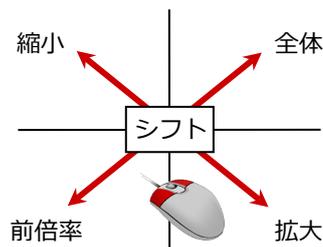


## 4 画面の拡大・縮小

### 両ボタンドラッグによる画面操作

CAD 画面の拡大・縮小といった操作を素早く行えるように、Jw\_cad と同じ「両ボタンドラッグ」を採用しています。

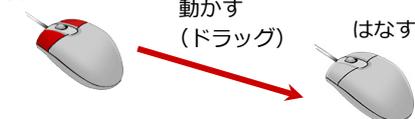
両ボタンドラッグとは、マウスの左右ボタンを同時に押したまま、マウスを移動する操作方法です。



ドラッグ方向	画面操作
右下	拡大
右上	全体 (作図範囲)
左下	前倍率
左上	縮小
動かさない	シフト (表示移動)

【ドラッグ方向と画面操作の関係】

左右のボタンを  
押したまま

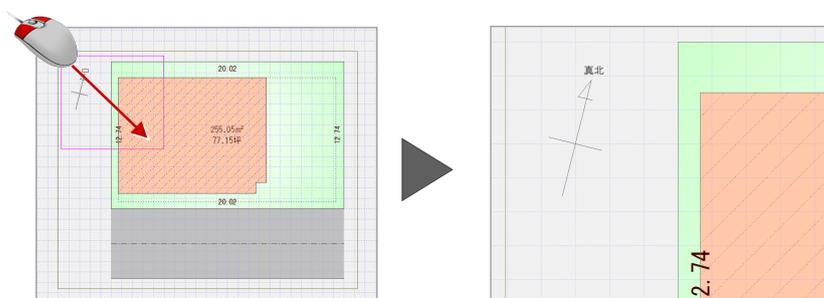


#### 両ボタン操作が効かないときは

「設定」メニューの「基本設定」の「操作 1」をクリックして、「両ボタンドラッグによる拡大縮小」にチェックを付けます。

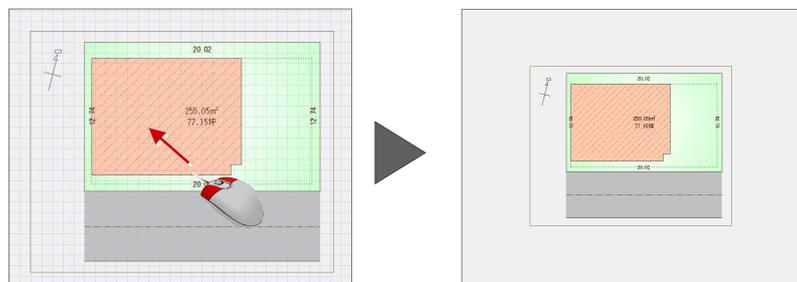
#### ■ 画面を拡大する

拡大したい範囲の左上でマウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま右下方向へドラッグしてボタンをはなすと、指定した範囲が画面いっぱいに表示されます。



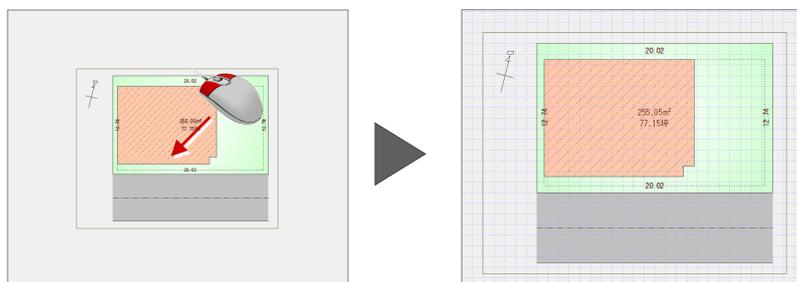
#### ■ 画面を縮小する

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま左上方向へドラッグしてボタンをはなすと、画面の中心を基準に縮小されます。



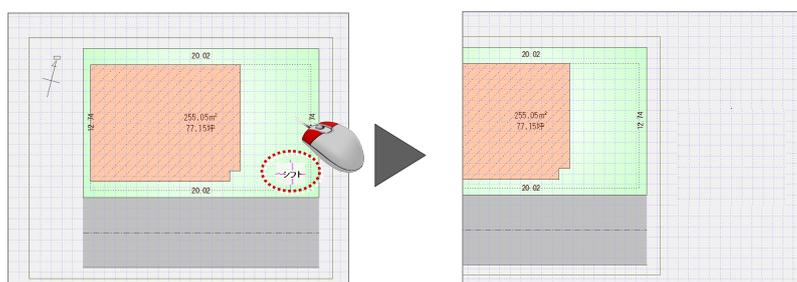
#### ■ 画面を前倍率に戻す

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま左下方向へドラッグしてボタンをはなすと、1 つ前の表示範囲に戻ります。



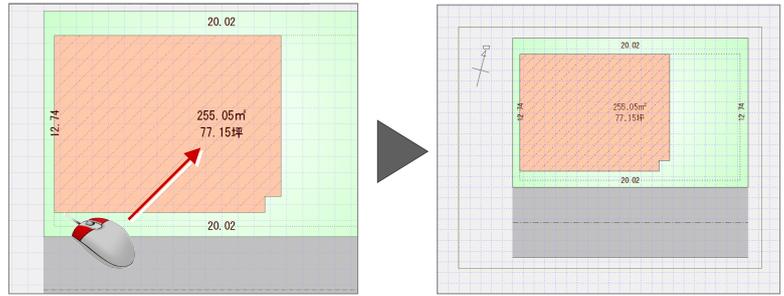
#### ■ 画面を移動する (シフト)

マウスの左右のボタンを同時に押し、動かさずにそのままはなすと、その位置に画面の中心が移動します。



### ■ 全体を表示する（作図範囲表示）

マウスの左右のボタンを同時に押し、そのまま右上方向へドラッグしてボタンをはなすと、作図範囲に設定しているエリアが画面いっぱいに表示されます。



### その他の方法

両ボタンドラッグの他にマウスホイールやキーボードを使って画面を操作できます。

#### ホイール・キー操作による拡大・縮小

「設定」メニューの「基本設定」の「操作 1」をクリックして、「キー操作」「ホイール操作」にて、拡大・縮小操作を逆に切り替えることができます。

#### マウスホイールによる画面操作

拡大・縮小	ホイールを上下に動かすと、画面が拡大縮小されます。	
表示移動	ホイールボタンを押したままマウスを動かすと、表示範囲が移動します。	

#### キーボードによる画面操作

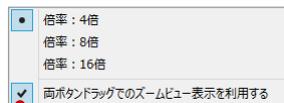
拡大・縮小	Page Down キーを押すと、画面の中心を基準に拡大されます。 Page Up キーを押すと、画面の中心を基準に縮小されます。
作図範囲表示	Home キーを押すと、作図範囲が画面いっぱいに表示されます。
表示移動	←・↑・→・↓キーを押すと、指定した方向に表示が移動します。

#### ズームビューを使って拡大表示するときは

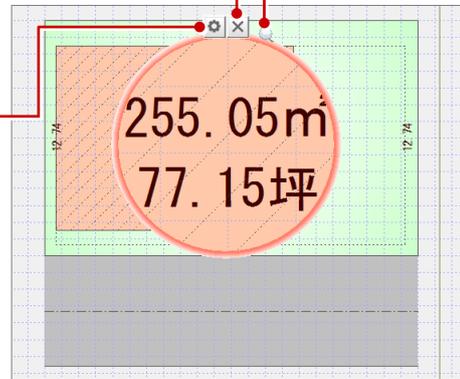
拡大したい位置にマウスカーソルを移動して、Z キーを押すとズームビューが表示されます。ズームビューを閉じる場合は、 をクリックします。拡大する倍率は、 をクリックして選べます。 を押したままズームビューをドラッグすると、拡大したい場所に移動できます。

ズームビューを閉じます。      ズームビューを拡大したい場所に移動できます。

ズームビューの拡大率を設定したり、両ボタンドラッグでのズームビュー表示の ON、OFF を切り替えます。



両ボタンドラッグでマウスを真上に移動すると、マウスカーソルが に変わり、そのままボタンをはなすとズームビューが表示されます。



## 5 データの選択

入力されているデータを編集するには、データを選択する必要があります。ここでは、データの選択方法を紹介します。

### 「要素範囲」で選択する

ツールバーの「対象データ選択」をクリックすると、操作モードが「要素範囲」に変わり、データを選択できる状態になります。

#### ■ データの真上でクリック

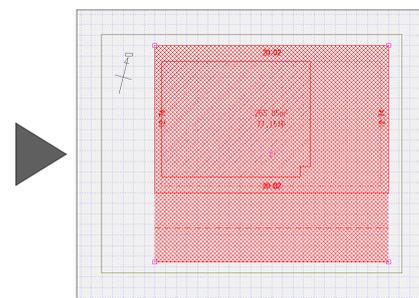
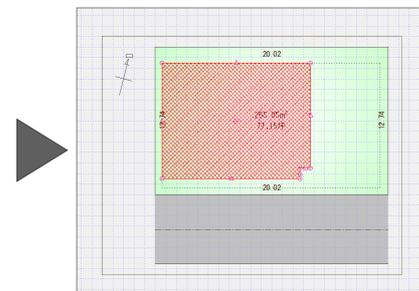
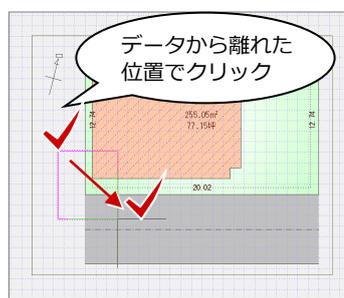
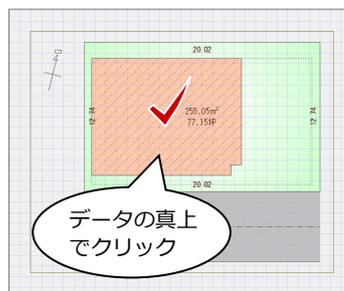
指定したデータが選択されます。

#### ■ データから離れた位置でクリック

指定した位置が範囲指定の 1 点目になります。指定した矩形範囲に触れる、または含まれているデータが選択されます。

※ Ctrl キーを押しながらデータを選択すると、すでに選択されているデータに追加できます。

※ データを選択している状態で、ポップアップメニューの「選択」または Esc キーを押すと、選択状態を解除できます。



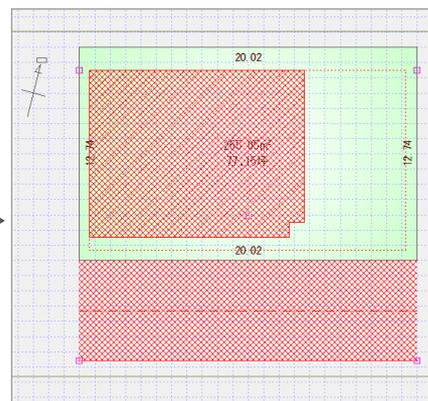
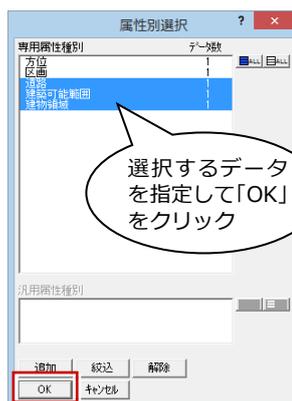
### 選択方法の切り替え

操作モードを変更することで、他にも次のような選択方法が使用できます。

	要素	1 クリックで指定したデータを選択します。
	線分クロス	指定した 2 点間のラインに触れているデータを選択します。
	ボックスイン	指定した矩形範囲に完全に含まれているデータを選択します。
	ボックスタッチ	指定した矩形範囲に触れている、または含まれているデータを選択します。
	属性	データを属性単位で選択します。「属性別選択」ダイアログで目的の属性を指定します。ツールバーの  と同じ機能です。
	ペン	データをペン No 単位で選択します。「ペン別選択」ダイアログで目的のペン No を指定します。
	線種	データを線種単位で選択します。「線種別選択」ダイアログで目的の線種を指定します。
	ALL 全選択	図面上のすべてのデータを選択します。

### 属性種別ごとに選択する

ツールバーの「属性別選択」をクリックすると、指定した属性のデータだけを選択できます。



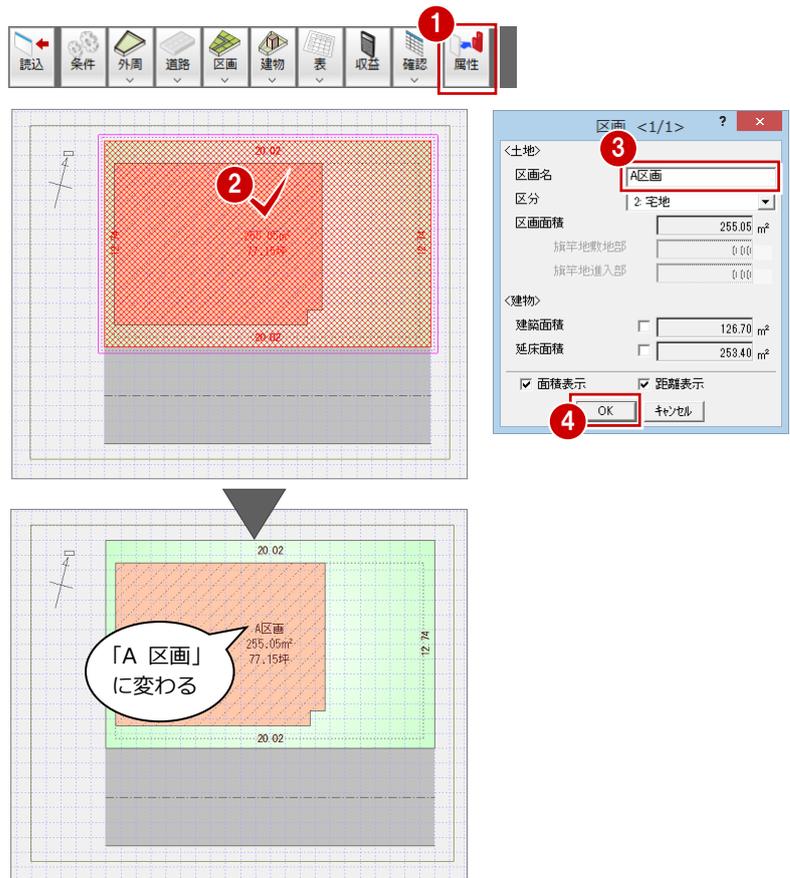
## 6 データの編集

### 属性を変更する

「属性変更」コマンドでは、区画・方位マークなど図面専用のデータ、汎用コマンドで入力された線分や文字（専用データ以外）の属性を変更することができます。

ここでは、区画名を変更してみましょう。

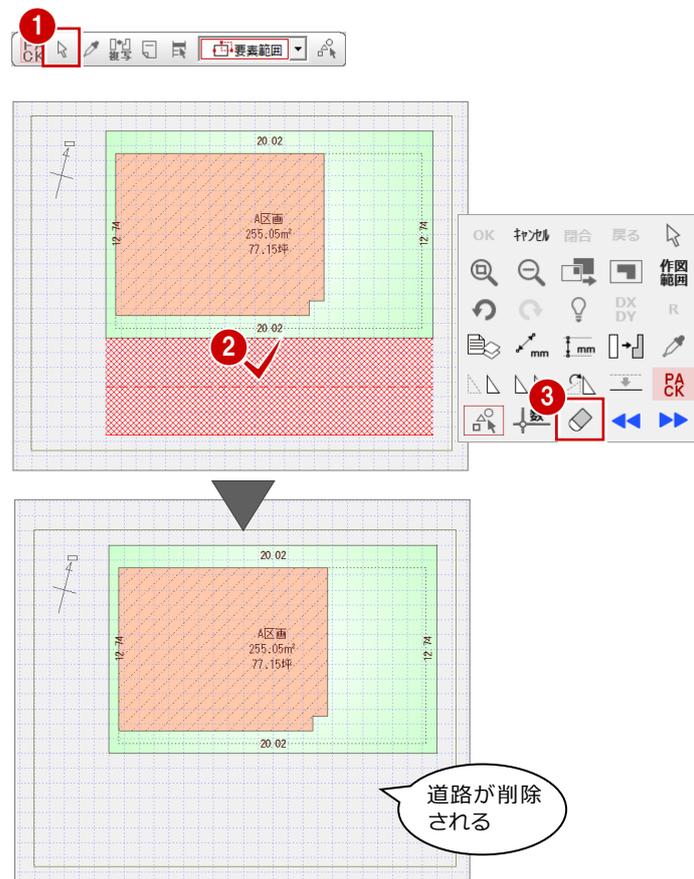
- ① 「属性」 をクリックします。
- ② 「区画」 をクリックします。
- ③④ 「区画名」 を「A 区画」に変更し、「OK」 をクリックします。



### データを削除する

道路を削除してみましょう。

- ①② 「対象データ選択」 をクリックして、道路を選択します。
- ③ 右クリックして、ポップアップメニューから「削除」を選びます。または Delete キーを押します。



※ 「元に戻す」 をクリックして、元に戻しておきましょう。 

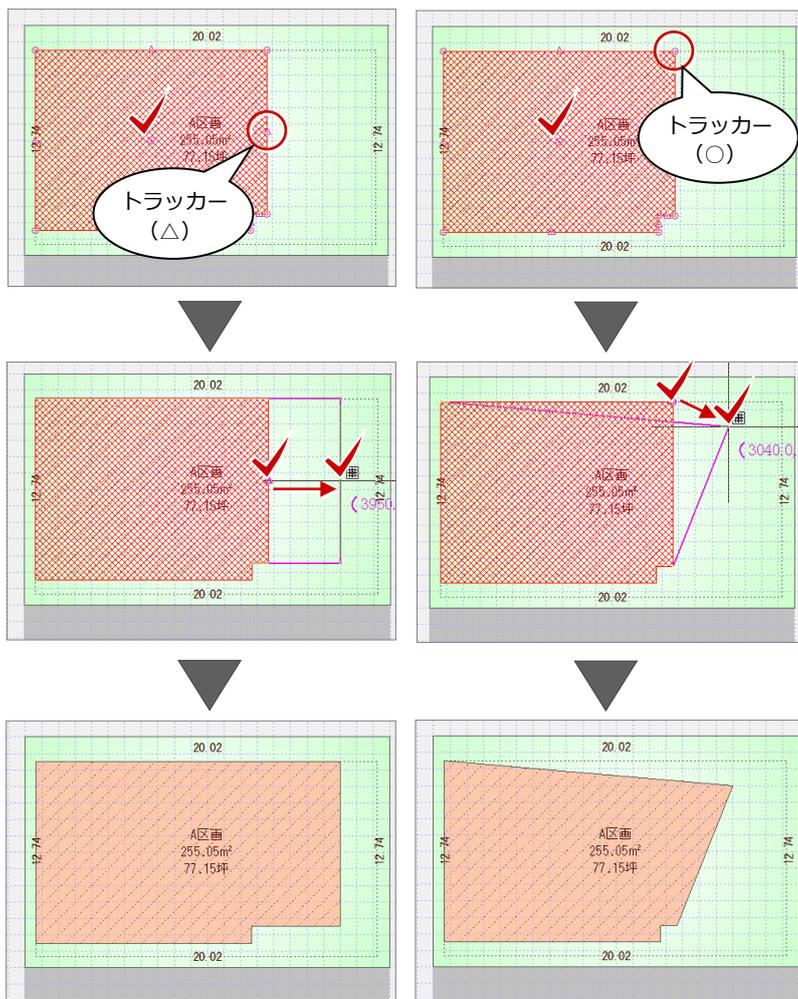
## トラッカーを使う

データを選択すると、周囲にトラッカーが表示されます。このトラッカーを移動することで、領域変形などの編集ができます。

### ■ 領域を変形する

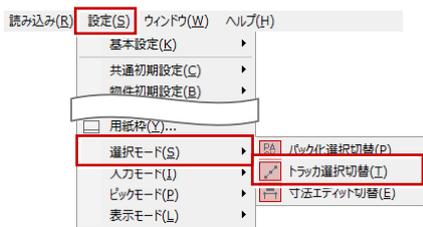
建築可能範囲や建物領域などの領域のデータは、トラッカー (△) をクリックして移動先を指定すると、領域を延長線に変更できます。

トラッカー (○) をクリックして移動先を指定すると、自由な位置に変更できます。



### トラッカーが表示されないときは

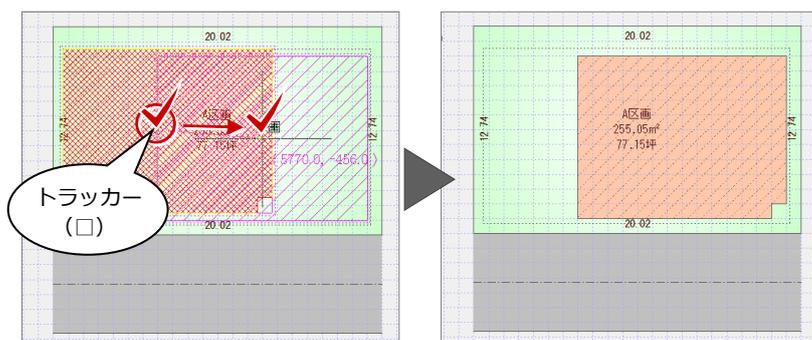
「設定」メニューの「選択モード」の「トラッカ選択切替」が ON になっているかどうかを確認してください。



### ■ 移動する

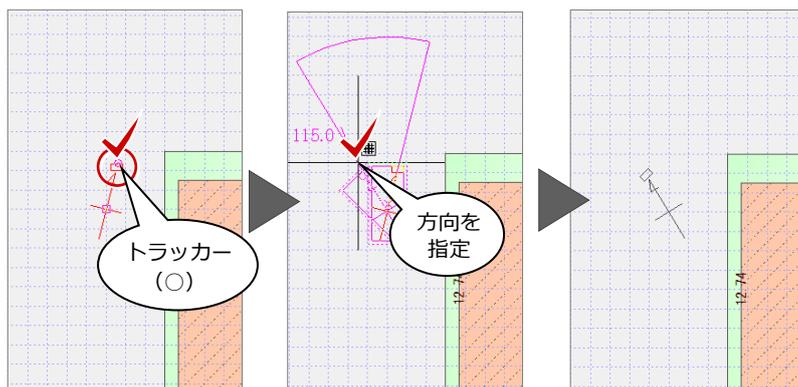
トラッカー (□) をクリックして移動先を指定すると、指定した位置までデータを移動できます。

※ Ctrl キーを押しながら、移動先をクリックすると選択データを複写します。



### ■ 回転する

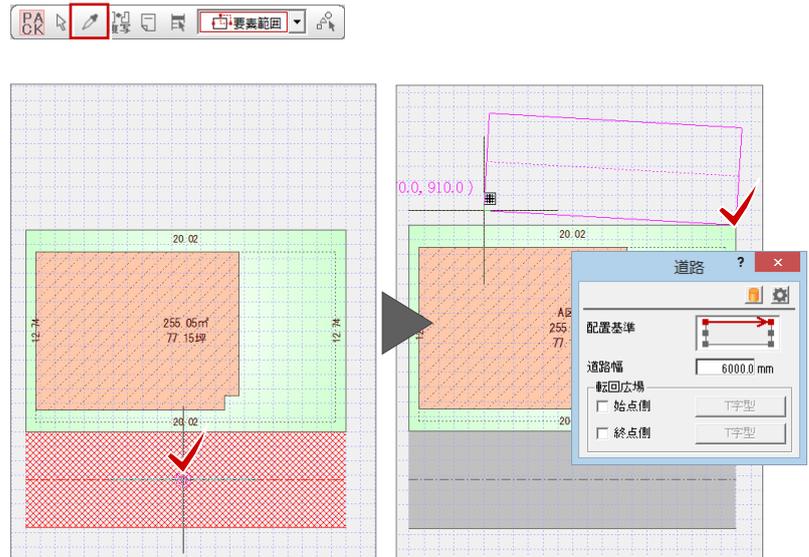
方位マークなどは、トラッカー (○) をクリックして回転する方向を指定すると、指定した向きに回転できます。



## スポイトを使う

ツールバーの「スポイト」をクリックして、入力済のデータをクリックすると、同じデータを入力できる状態になります。入力コマンドを実行して、再度、属性を設定する手間を省けます。

※ 方位マークなどスポイト対象外のデータもあります。また、データによって一部取得されない属性もあります。

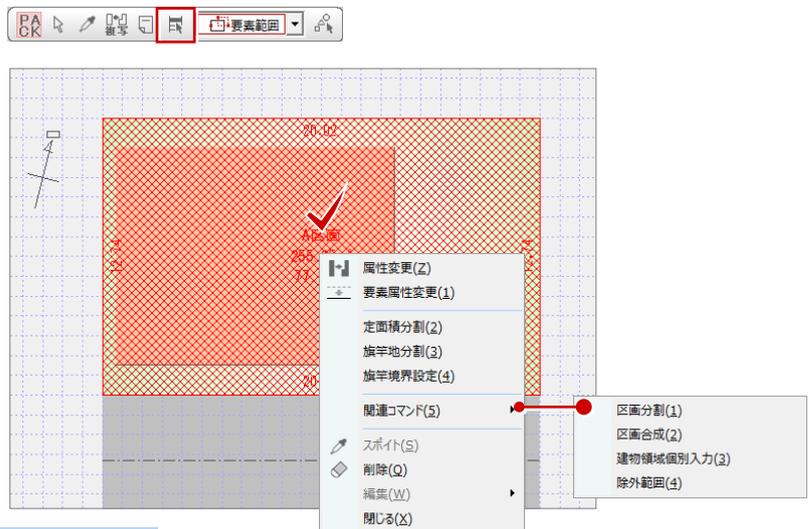


## コマンドコレクションについて

ツールバーの「コマンドコレクション」をクリックして、対象データをクリックすると、選択したデータに関連するコマンドが表示され、コマンドを探すことなく簡単に操作を行えます。

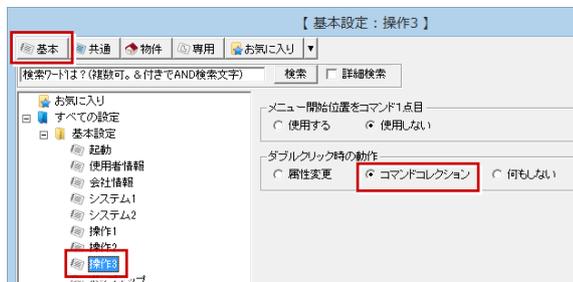
右図は、区画を選んだ場合のものです。

※ 表示されるコマンドコレクションメニューは選択したデータにより異なります。



### ダブルクリックでコマンドコレクションを表示する

「基本設定 (操作 3)」ダイアログの「ダブルクリック時の動作」を「コマンドコレクション」に設定すると、対象データをダブルクリックしてコマンドコレクションメニューを表示することができます。

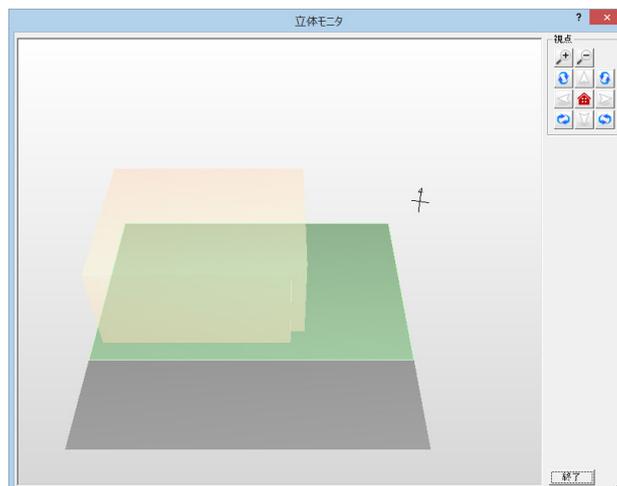


## 7 立体データの確認

### 立体モニタを開く

- ① 「確認」メニューから「立体モニタ」を選びます。

「立体モニタ」ウィンドウが開いて、立体データが作成されます。

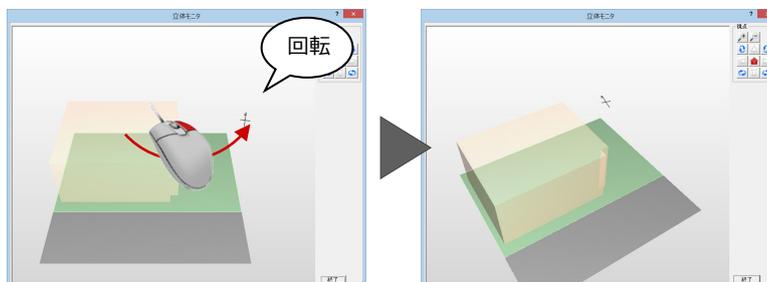


### 立体モニタでの画面操作

立体モニタでの視点の変更は、以下のマウス操作で行います。

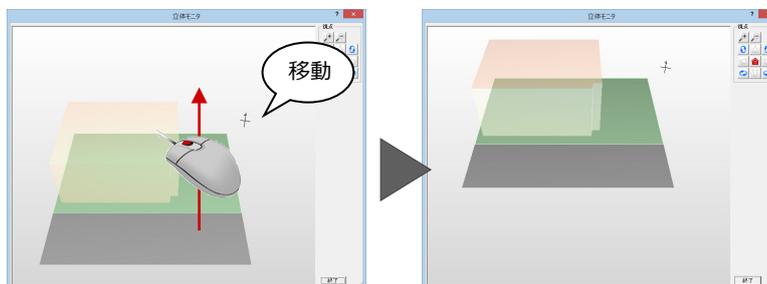
#### ■ 視点を回転する

マウスの右ボタンを押したままドラッグします。ドラッグした方向に視点位置が回転移動します。



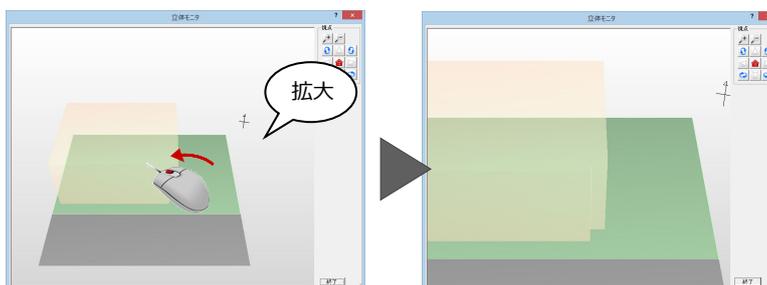
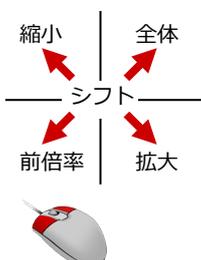
#### ■ 視点を移動する

マウスのホイールボタンを押したままドラッグします。ドラッグした方向に視点位置が移動します。



#### ■ 拡大・縮小する

マウスホイールを向こう側に回すと拡大、手前側に回すと縮小します。両ボタンドラッグを使用しても拡大・縮小できます。  
⇒ 両ボタンドラッグによる操作については、P.7 参照



## 視点ボタンを使う

「視点ボタン」の各ボタンを使用して、視点位置を移動・回転したり、立体を拡大・縮小したりして、アングルを決めます。

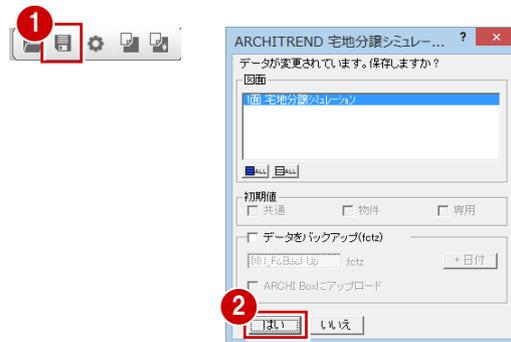


拡大縮小	「表示拡大」	視点を拡大・縮小します。	移動	「上移動」	視点位置を移動します。 ※ キーボードの矢印キーを使って視点位置を移動することもできます。
	「表示縮小」			「下移動」	
回転	「上回転」	視点を回転します。	「右移動」		
	「下回転」		「左移動」		
	「右回転」		その他	「視点を初期状態に戻す」	モニタ起動時の視点状態に戻ります。
	「左回転」				

# 8 物件変更とプログラムの終了

## データを保存する

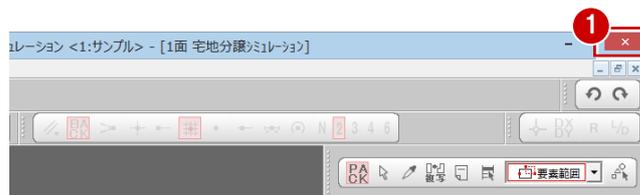
- 1 ツールバーの「上書き保存」をクリックします。
- 2 確認画面で「はい」をクリックします。



## プログラムを終了する

- 1 「閉じる」をクリックします。

「物件選択」ダイアログを開いている場合「アプリケーション 終了」をクリックして、宅地分譲シミュレーションを終了します。



## 他の物件を開くには

ツールバーの「物件変更」を選び、「物件選択」ダイアログで物件をダブルクリックして開きます。

**物件フォルダ変更**  
使用する物件フォルダを登録できます。

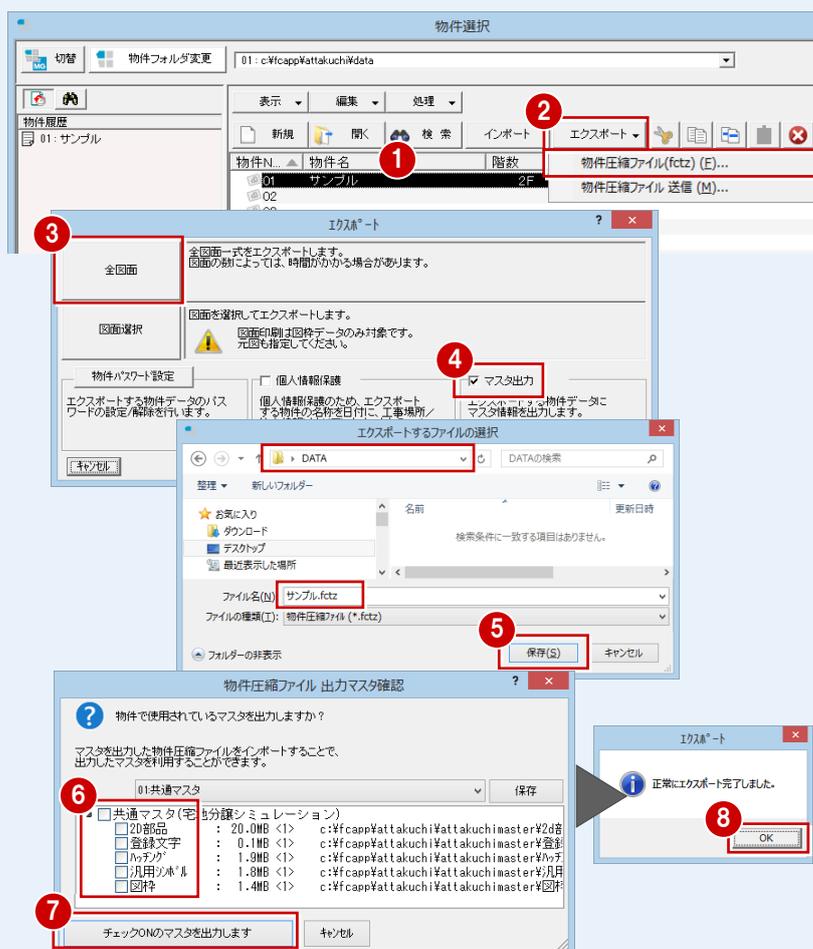
**物件フォルダ**  
物件フォルダの切り替えは、▼をクリックしてリストボックスから選択します。

## 【補足】物件データのエクスポート・インポート

宅地分譲シミュレーションの物件データを受け渡しする場合は、物件圧縮ファイル (fctz) の形式にエクスポートします。

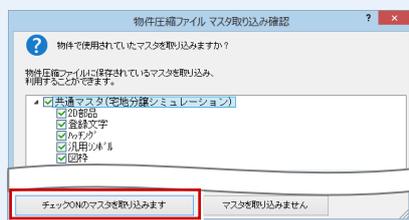
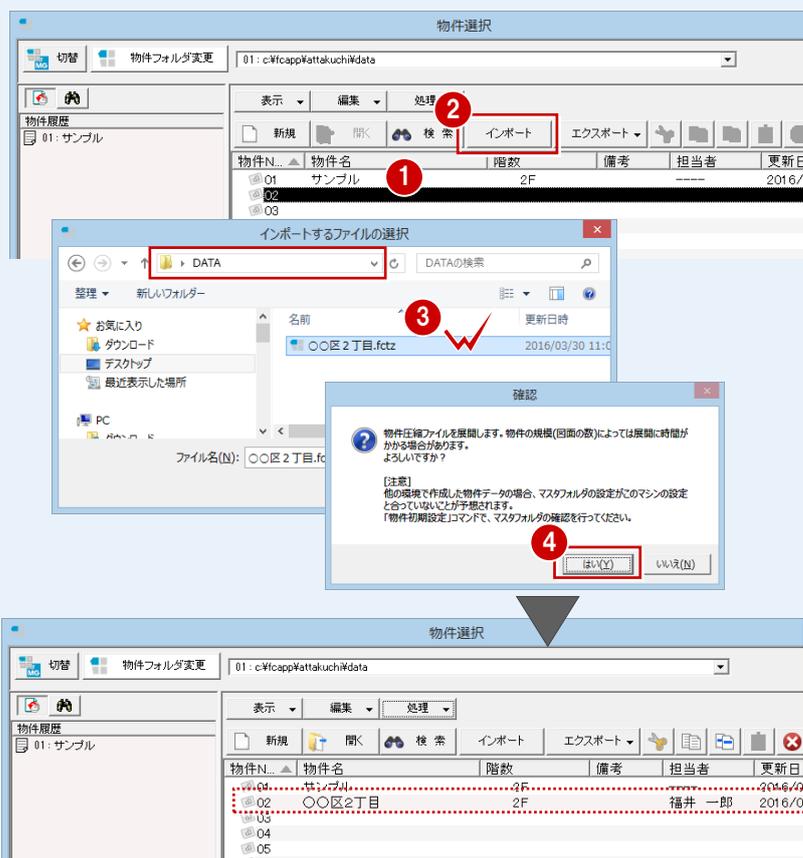
### 物件データをエクスポートする

- 1 物件を選びます。(複数選択可能)
- 2 「エクスポート」メニューから「物件圧縮ファイル (fctz)」を選びます。
- 3 「全図面」を選択します。
- 4 物件データと同時にマスタも出力するときは「マスタ出力」をONにします。
- 5 ファイルの保存場所とファイル名を設定して、「保存」をクリックします。
- 6,7 「マスタ出力」をONにした場合は、出力するマスタにチェックを付けて、「チェックONのマスタを出力します」をクリックします。
- 8 エクスポート完了の確認画面で「OK」をクリックします。



### 物件データをインポートする

- 1 空き物件を選びます。
  - 2 「インポート」をクリックします。
  - 3 ファイルの保存場所を設定して、インポートするファイル (\*.fctz) をダブルクリックします。
  - 4 確認画面で「はい」をクリックすると、インポート処理が始まります。一覧に取り込まれた物件データが登録されます。
- ※ インポートするファイルにマスタデータが保存されている場合は、取り込むマスタにチェックをつけて、「チェックONのマスタを取り込みます」をクリックすると、インポート処理が始まります。

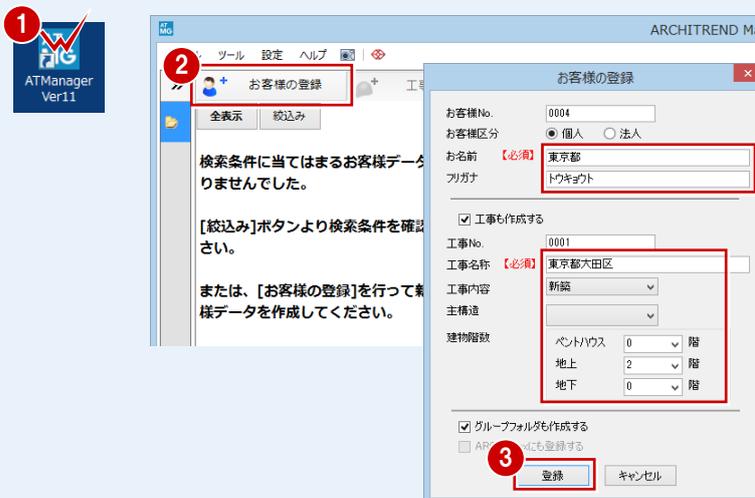


## 【補足】マネージャーをお持ちの場合

ARCHITREND Manager (マネージャー) は、ARCHITREND シリーズのファイル管理ツールです。作成した物件データはもちろん、Word や Excel などで作成した書類も一元管理し、マネージャーから直接開くこともできます。ここでは、マネージャーからの宅地分譲シミュレーションデータの作成方法を紹介します。

### マネージャーを起動する

- 1 デスクトップの「ATManager Ver11」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「お客様の登録」をクリックします。
- 3 「お客様の登録」ダイアログで、お客様の名前や工事内容などを設定して、「登録」をクリックします。



### 宅地分譲シミュレーションを起動する

- 1 マネージャーのツリー表示部分で、登録した工事が選択されていることを確認します。
- 2 「ARCHITREND ▼」メニューから「ARCHITREND 宅地分譲シミュレーション」を選びます。
- 3 確認画面で「OK」をクリックします。
- 4 「物件情報」ダイアログで、物件名などを確認して、「OK」をクリックします。
- 5 「処理選択」ダイアログの「宅地分譲シミュレーション」をダブルクリックします。
- 6 「図面選択」ダイアログの「1面」をダブルクリックします。宅地分譲シミュレーションが起動します。



宅地分譲シミュレーションのデータを保存すると、マネージャーのファイル一覧に宅地分譲シミュレーションデータが表示されます。

